

<内閣府「若年者雇用対策プロジェクトチーム」有識者ヒアリング>

若年者雇用に関する課題

2009年8月3日

日本労働組合総連合会

事務局長 古賀 伸明

1. はじめに

◇新たな施策というよりも、現在ハローワークで行われている既存の施策の徹底が重要

<ジョブカフェ>

地域の実情に合った若者の能力向上と就職促進を図るため若年者が雇用関連サービスを1か所でまとめて受けられるようにしたワンストップサービス

<ヤングワークプラザ>

フリーターが長期化している若年層で特に専門的な支援を必要としている人にきめ細やかな支援を実現するため、職業適性診断、カウンセリング、ジョブ・クラブ(就職塾)、就職支援セミナー等を行う施設

<地域若者サポートステーション(サポステ)>

国と地方自治体が連携し、地域のニーズを踏まえて若者やその保護者等に対して個別・継続的な相談、セミナー、職業体験等の総合的な支援を行う

<その他、学校教育の充実等>

2. 現状の問題点

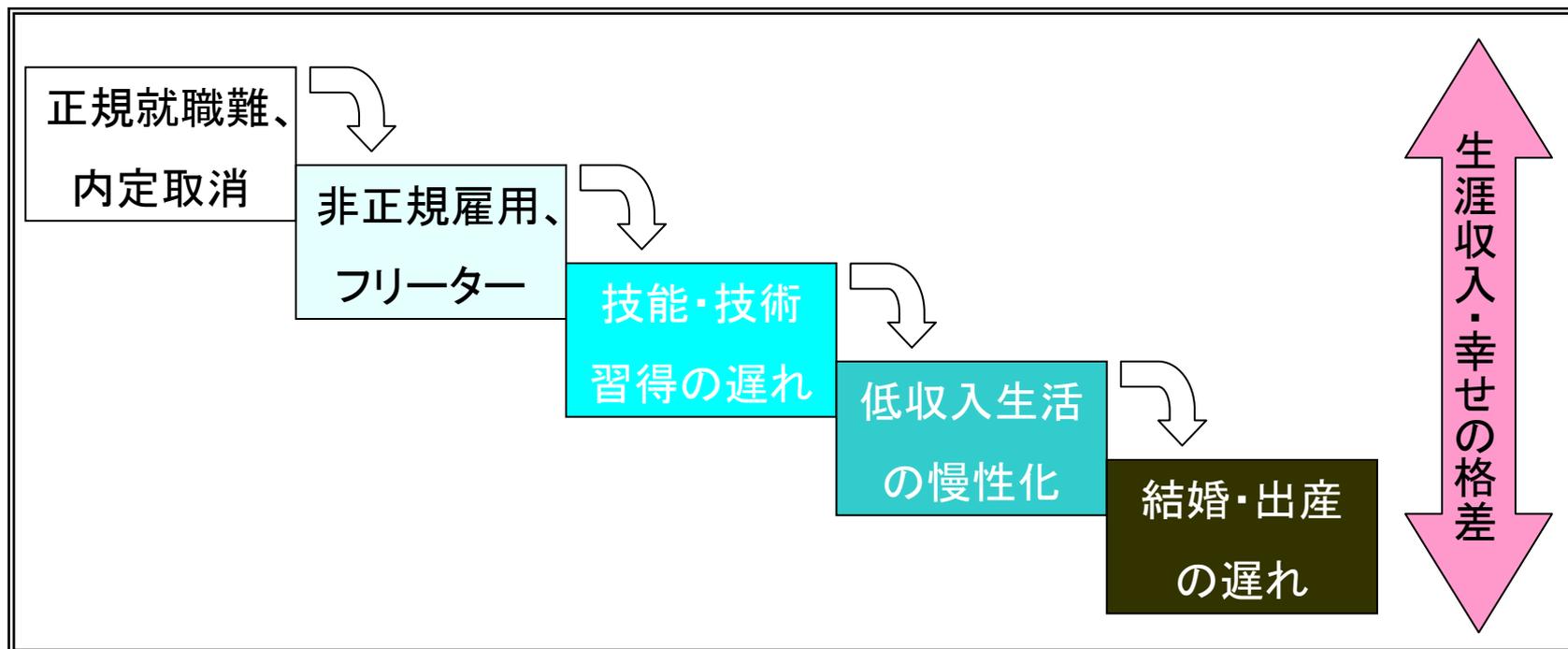
◇若者の雇用問題は中高年よりも深刻になりつつある

- (1)派遣労働をはじめ低収入で不安定な雇用が多い(非正規雇用)
- (2)ニートと呼ばれる就労意識の乏しい若者が少なくない
- (3)フリーターの長期滞留化(年長フリーター)
- (4)学校教育終了後の就労支援や動機付けが弱い
- (5)納得のいく就労に向けた、準備やトレーニングを行う機会が少ない
- (6)貯蓄が少なく、失業時の生活の維持や再就労が困難

*ニート(NEET; Not in Education, Employment, or Training)

3. 若年雇用対策の重要性

◇若者の雇用問題は更なる社会不安を招きかねない



少子化の進行、社会保障制度の破綻

4. 連合の考える若年雇用対策

①雇用の安定化（非正規雇用から正規雇用へ）

フリーターの正規雇用に向けて、

- ・ジョブカフェやヤングワークプラザ等における就職支援
- ・フリーターの正規雇用化を行う企業への支援
- ・能力開発機会の提供等の施策

を展開する

【課題】

本人の希望やライフプランに沿った運用の徹底

4. 連合の考える若年雇用対策

②ニート対策

地域若者サポートステーション等を拡充する

【課題】

‘サポート’から‘インポート’への移行の是非検討

4. 連合の考える若年雇用対策

③年長フリーター対策

「就職氷河期」の年長フリーターの正規雇用化に向けて、

- ・きめ細やかなキャリア・コンサルティング
- ・職業訓練
- ・就労支援

を軸とした施策を強化する

【課題】

「180万人雇用創出プラン」に基づく雇用の受け皿づくり

4. 連合の考える若年雇用対策

④学校教育終了後の就労促進

若者の勤労観・職業観を育むため、学校教育におけるキャリア教育や中学校等における職場体験を拡充する

高等学校における進路指導(就職指導も含む)体制の強化をはかるため「進路指導アドバイザー(仮称)」(1名1校)の配置や教職員に対する研修実施、企業や労働組合との連携強化を行う

【課題】

大学全入時代、一律的な高学歴化の検証

4. 連合の考える若年雇用対策

⑤ 納得のいく就労の促進と離職の防止

若年者トライアル雇用事業やインターンシップ制度の促進をはかる

【課題】

産業構造の転換の底支えを視野に入れた取組み

4. 連合の考える若年雇用対策

⑥雇用のセーフティネットの再構築

雇用保険制度の拡充

→すべての労働者への適用

第2のセーフティネット「就労・生活支援給付」(仮称)の創設

→職業訓練中の生活支援給付

【課題】

再就労を促すしくみの構築＝連帯、育成、包摂

5. おわりに

◇若者とともに、日本の将来を考えることが重要

- ・「労働の尊厳」を理解し、勤労観・職業観を育む教育

- 働くことを通じた社会貢献の大切さの理解浸透

- 労働法やワークルール、ワーク・ライフ・バランス等に関する教育カリキュラムの充実

- ・若者を巻き込んだ議論の場の充実